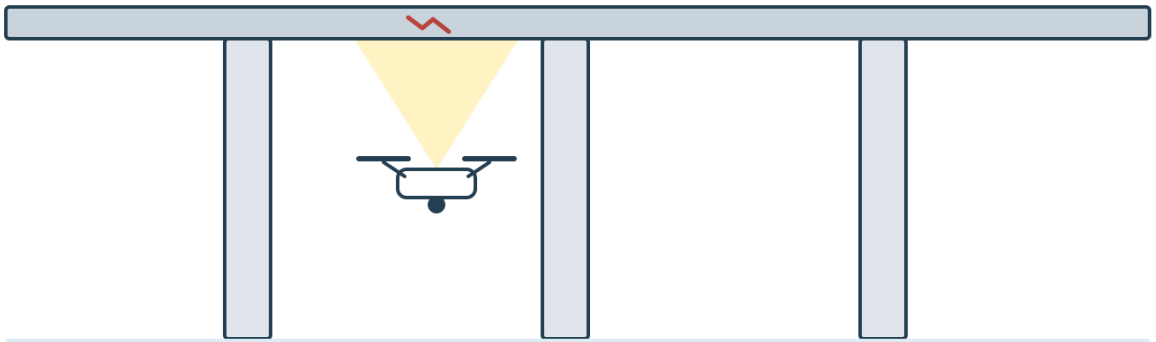
点検とAI（ドローンで橋を確かめる）

橋やトンネルの点検に、ドローンやAIをどのように使っているのだろう

橋を点検するようす（模式）



ドローンで、橋のうらがわなど、人が近づきにくい所も写す

なぜ点検するの？

・橋やトンネルは、5年に1回、
近くで見て点検するのが基本
・古くなった所を早く見つけて
直すと、長く使える
・高い所や数が多い点検は、
手間がかかり、あぶないことも

1 ドローンで写す
たくさんの画像を
とる

→

2 画像を調べる
AIなどで、ひびが
ありそうな所に印を付ける

→

3 人が確かめる
点検する人が近くで
見て、判断する

→

4 直す計画を立てる
どこから直すか
を決める

画像を調べるAIも、見のがしやまちがいがある

ドローンやAIは、人の点検を助ける道具。最後に判断するのは、点検する人。

暗い所や、よごれで見えにくい所は、画像だけでは分かりにくい。

※ 模式図。点検の方法は、橋やトンネル、使う技術によってちがう。